

## <外壁塗装の工程と注意点>

塗装工事は、始まってしまうと元の状態が見えなくなってしまいますので。工事前に工程について、詳しく打合せをしておくことが重要です。一般的な工程は、足場組み→下地補修→高圧洗浄→下塗り・中塗り・上塗り→ペンキ廻り塗装→足場解体となります。

・足場組み…足場は外壁より 80cm 程度離して組みます。カーポートの屋根板を外したり、鉢植えなどがあれば移動が必要です。状況によっては、駐車場が利用できなくなる



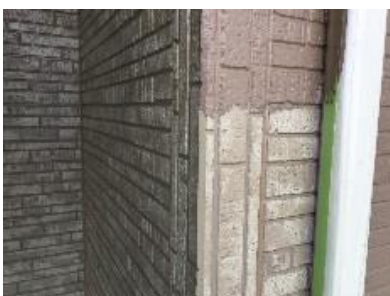
こともありますので、車をお持ちの方は注意してください。また、隣の住戸との間が狭い場合は、境界を越えて足場を組まなければならない場合があります。隣の敷地を借りるには事前に許可を得る必要がありますので、施工業者と一緒に挨拶に行くことをおすすめします。挨拶のときには、口頭だけでなく書面を渡したほうがよいでしょう。

### ・下地補修



下地補修は、業者によってどの程度行うか違うことがあります。どんな補修をするのかその補修は本当に必要かどうかなど、打合せ時に確認しましょう。モルタルのヒビ補修は左官工事となり、補修材が入りやすいように、いったんヒビを広げてから補修します。サイディングの場合は、シーリングの打ち替え工事を行います。古いシーリングを撤去して充填する方法と、そのまま新しいシーリング材を充填する方法がありますが、古いシーリングの上に新しいシーリングを充填すると十分な厚みにならず、すぐに切れたり、めくれたりする可能性があります。そのため、基本的には撤去して打ち替えることをおすすめします。

### ・下塗り・中塗り・上塗り



下塗りは壁に塗料を密着させるための接着剤のようなもので、中塗り・上塗りに使う塗料によって、下塗りの塗料がメーカーから指定されています。同じ様に中塗り・上塗り（2度塗り）の場合も、同じ塗料を使うようにメーカーが指定しています。業者によっては2度塗ったことがよくわかるように、中塗り、上塗りで違う塗料を使うことがありますが、その場合、後日塗りむらや退色が起こってもメーカーの保証

が受けられないことがあります。また、塗料によっては、上塗りが一度で済むものもあります。中塗りがされないからといって、手抜きとは限りませんので、2度塗りの場合にはどんな塗料を使うのかを明確にし、仕様書を確認しましょう。

工事途中の写真などを見せられても、2回塗ったかわからないことがあります。その場合は塗料を何缶使ったかで調べることができます。塗料メーカーは、塗装する面積によって使用する塗料の量を指定しますので、塗料が大幅に余っていたりするときは注意が必要です。一般的なものは下塗り、中塗り、上塗りの3回塗りですが、塗料によっては2回塗りでよいものもあり、逆に傷みが激しいときなどは4回塗りしたり、仕上がりを豪華に見せるため、石材調の塗料を5回塗りすることもあります。

- ペンキ廻り塗装

ペンキ廻り塗装は、雨樋や庇、ダクトなど、壁以外の塗装のことです。見積り時にどこまで塗るのかをしっかりと確認しておかないと、ここも塗ってもらえると思っていたのに…というトラブルになります。樋や雨戸、庇、ダクト類など、壁以外にも足場を解体してからでは塗装ができないこともあります。